第176回 誘電・絶縁材料技術委員会議事録(案)

日時: 2005年3月18日(金) 11:00~12:00

場所:徳島大学 K601 教室

出席者:岡本委員長、内田幹事、宮下幹事、岡下幹事補

礒島、東村、水谷、武藤、小山、金子、鈴置、田中、長尾、穂積

(ISEIM 事務局 高橋)

資料番号:

- 176-1 誘電·絶縁材料技術委員会委員名簿
- 176-2 A 部門役員会メモ
- 176-3 A 部門技術委員会ホームページの運用について
- 176-4 平成 17 年連合研究会に関する回答
- 176-5 各技術委員会の中期(6年程度)ビジョンの作成と設置趣意書の見直し(その2)
- 176-6 電気学会からのお願い(科研費審査員候補者に関する情報提供依頼)
- 176-7 卓越技術データベースへの登録のお願い
- 176-8 A 部門の専門領域の見直し(細分化)のお願い
- 176-9 第3~5回ナノ構造制御有機薄膜及び複合膜の機能化とデバイス応用調査専門委員 会議事録
- 176-10 情報通信のための誘電絶縁材料委員会第 5 回資料、第四回情報通信のための誘電 絶縁材料調査専門委員会議事録
- 176-11 第1~10回高電界電気絶縁における電荷挙動と界面調査専門委員会議事録
- 176-12 高電界電気絶縁における電荷挙動と界面調査専門委員会 解散報告書
- 176-13 調査専門委員会フォローシート (2004年度)
- 176-14 平成 16 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定(12 次案)
- 176-15 誘電·絶縁材料技術員会業務分担案
- 176-16 第 2 回 ISEIM2005 組織委員会議事録(案)
- 176-17 第 3 回 ISEIM2005 組織委員会議事録(案)
- 176-18 ISEIM2005 予算案(4次案)
- 176-19 ISEIM2005 Time Schedule (tentative)
- 176-20 2005 International Symposium on Electrical Insulating Materials (ISEIM2005)
 Program (tentative)

議事:

1. 資料 176-1 について

委員名簿の紹介がなされた。礒島委員所属がエネルギー環境技術研究所から研究開発本部に変更となった。

2. 資料 176-2 について

A部門役員会メモについて、岡本委員長より説明された。ISEIM2005の活動資金については、一律規定の10万円で承認された。また、外国学会との交流申請(100周年基金)については、C. Laurent 氏の20万円が承認された。二期目継続調査専門委員会における会員構成について長尾委員よりA部門では継続する委員の80%、全体の50%が電気学会会員であればよいとの補足説明があった。

3. 資料 176-3 について

A部門技術委員会ホームページの運用について岡本委員長より説明された。委員会名簿については、個人情報流出防止の観点から予め掲載項目についての合意が必要との意見が出された。氏名、所属程度にとどめ、メールアドレス等個人特定項目は不要との意見が出された。

4. 資料 176-4 について

平成 17 年度連合研究会への参加申し込みについて岡本委員長より説明があった。ナノコンポジットで申請することで承認された。3/25 に提出する。

5. 資料 176-5 について

中期ビジョンの作成と設置趣意書の見直しについて岡本委員長より説明があった。当技術委員会発足当時(常置委員会)の設置趣意書が見当たらないため、絶縁材料技術委員会から誘電・絶縁技術委員会に名称変更した際の設置趣意書を参考に幹事団で案を作成することとなった。長尾委員より、この技術委員会がどのような方向へ進もうとしているかを示せればよいとの補足説明があった。なお、本資料はHPに掲載される予定。

6. 資料 176-6 について

A 部門役員会からの科研費審査員候補者に関する情報提供依頼について、岡本委員長より 各委員に協力要請があった。長尾委員より、本件については既に対応済みで、A 部門で 40 数名、全体で 60 数名を登録予定である旨、補足説明があった。

7. 資料 176-7 について

卓越技術データベースへの登録について岡本委員長より説明があった。長尾委員より、本件の目的について補足説明があった。基本的に、卓越技術として世界に誇れるものをリストアップし、データベース化する予定である。過去の受賞論文等から検討する。具体的な書式については、4月の上部委員会で検討後となる。リストに載っている方には技術委員会幹事団から何らかの依頼する予定である。

8. 資料 176-8 について

A部門論文の専門領域の見直しについて岡本委員長より説明があった。投稿論文の詳しいキーワード、分類の検討についての要請であり、既に締め切りをすぎていることから、委員各位の協力をお願いする。幹事団で案をまとめ、メールで検討することとなった。田中委員より、電気工学ハンドブックの分類をベースに考えてはどうかとの意見が出された。すぐに消えてしまうようなキーワードは好ましくなく、ハンドブックの分類をベースにプラスアルファを考える。水谷委員より、材料だけでは不十分で絶縁・計測システムも考慮したほうが良いとの意見が出された。長尾委員より、今後、編集委員会で変更されるため、放電、プラズマ委員会程度に幅を広げておくことが必要との意見が出された。岡本委員長より、主旨を明確にした上で検討依頼するとの説明があった。

9. 資料 176-9 について

金子委員よりナノ構造制御有機薄膜及び複合膜の機能化とデバイス応用調査専門委員会議事録の報告があり、承認された。予定より多く(6回)の委員会が開催された。田中委員より JCII の意味について質問があり、化学技術戦略推進機構との回答があった。

10. 資料 176-10 について

岡本委員長より情報通信のための誘電絶縁材料委員会議事録の報告があり、承認された。 IEEE Transaction 特集号の計画について紹介があり、協力要請があった(3月31日締め切り)。

11. 資料 176-11 について

長尾委員より高電界電気絶縁における電荷挙動と界面調査専門委員会議事録の報告があり承認された。第1回から第10回までの議事録である。既に、HPに掲載済みで活動は順調に進行しており、3次元計測、高速化等の成果報告があった。

12. 資料 176-12 について

長尾委員より高電界電気絶縁における電荷挙動と界面調査専門委員会の解散報告書の説明があり、承認された。田中委員より継続予定についての質問があり、長尾委員より同分野では CIGRE での活動もあり (メンバー構成はほぼ同じ)、少し間をおいて考えるとの回答があった。それまでの期間は、CIGRE の WG で活動を継続する。岡本委員長より基礎分野の維持が必要であり、継続についての検討依頼があった。田中委員より、9月解散予定のナノコンポジット委員会の解散報告書提出時期について質問があった。運営委員会の開催が5月、8月であり、それに間に合えばよいとのことである。

13. 資料 176-13 について

調査専門委員会フォローシート(2004 年、2005 年)について宮下幹事より報告があった。 各委員会の開催日等活動状況について確認を行った。既に解散した機器絶縁の最新部分放 電計測技術調査専門委員会の技術報告については、まもなく発行予定との説明が穂積委員 よりあった。

14. 資料 176-14 について

平成 16 年度、17 年度行事予定について宮下幹事より報告があった。17 年度予定のうち、前回懸案事項であった 12 月、18 年 1 月に研究会が集中する点について議論された。他学会、委員会と共催の研究会については、その合同実施は難しいが、本技術委員会単独開催の研究会については、合同実施することにデメリットはなく、実際の研究会担当者の意向を確認したうえで、開催方法を検討することとなった。幹事団の方から、該当研究会担当者に検討を依頼する。

以前より課題となっていた 3 月国際会議報告について、その継続要否について議論があった。現在は、多くの国際会議に日本から参加しており、また最低限必要な情報は WEB 等でも入手可能であることから、以前のような情報提供としての報告は不要との意見が出された。しかし、本日の委員会出席者数が少なく、全委員に照会後に継続要否を決定することとした。特定のメンバーが出席している CIGRE、IEC 等の国際委員会活動については、シンポジウムでの報告とすることも考えられ、幹事団で案を作成後、全委員に配布し、次回技術委員会で再審議することとした。なお従来、国際会議報告は IEEE DEIS 協賛であり、日高先生にも意見を求めることとした。

15. 資料 176-15 について

誘電・絶縁材料技術委員会業務分担について岡本委員長より説明があった。また、異動のため、宮下幹事が次回(6月)委員会で退任する予定であるとの報告があった。

16. 資料 176-16~20 について

岡本委員長より、ISEIM2005 関係の資料について紹介があった。

17. 次回委員会:6月開催のISEIM2005会期中を予定。

以上。